

横浜市立芹が谷南小学校 令和元年度 体育・健康プラン

～体育・健康に関する指導の全体計画～

1 中期学校経営方針

(1) 学校教育目標と教育課程全体で育成を目指す資質・能力

学校教育目標	教育課程全体で育成を目指す資質・能力
笑顔いっぱい、やさしさいっぱい、 芹が谷大好き みんな生き生き芹南っ子	<コミュニケーション能力> ○目的や意図に応じて伝える力 ○多様な考えのよさを生かす力 ○伝え合うことで自分の考えを深める力

(2) 中期取組目標

中期取組目標
○学ぶことの意義や楽しさを感じながら基礎・基本を身に付け、知をはたらかせて生きる力を育みます。 ○自分を大切にすることを育むとともに、相手の立場や気持ちを考えて行動する態度を育みます。 ○自分の健康や安全について考え、心身ともにたくましく生きる力を育みます。 ○自分たちのまちに愛着をもち、コミュニケーションを図って視野を広げ、つながりを大切にすることを育みます。

(3) 体育・健康に関する指導の重点取組分野・具体的取組

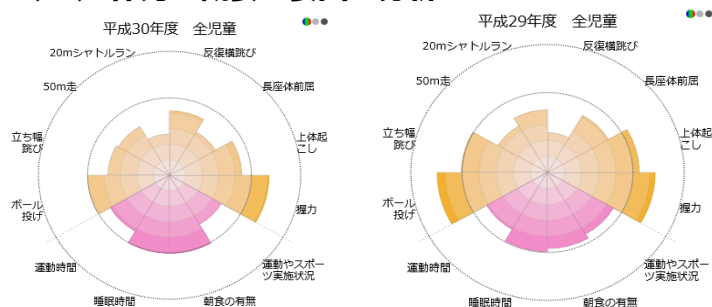
重点取組分野	具体的取組
健やかな体	① 子ども一人ひとりがめあてをもち、進んで楽しみながら体育に取り組んでいけるように指導する。 ② 授業の中での学び合いを大切にし、お互いのよさに気付く、ともに高め合っていこうとする態度を育てていく。 ③ 児童主体の「運動集会委員会」で体力向上に関する活動に取り組み、児童が自ら運動をする習慣を育てていく。
担当	体育部

2 体育・健康に関する実態把握

(1) 体育・健康に関する実態

- ・新体力テストの結果より、得意な運動と苦手な運動の差が大きいという実態がある。
- ・休み時間は外遊びをする児童が多いが、個人差があり、内遊びに偏る児童もいる。
- ・保健では、学習したことを生活面に生かしている。
- ・地域には、野球、サッカーなどのスポーツクラブがあり、運動好きな児童が所属している。

(2) 体力の概要と要因の分析



新体力テストの結果から、結果が男女で異なることや昨年度と比べて下回ることがわかる。休み時間の遊び方や放課後の遊び方が変わり、持久力や投げの力、俊敏性などが下がっている。学校全体として、多様な動きを取り入れた体育学習や外遊びの推進が必要である。

3 体育・健康に関する具体的取組

教科

《体育科の取組》

健康な生活を実践する態度、自己の健康のために主体的に課題解決する力を育む

- 運動の特性にふれ、基本となる動きを身に付けたり、いろいろな体の動きを経験したりすることで、運動の楽しさを味わえるように授業づくりを工夫していく。
- 学習に対する見通しや自分に合っためあてをもち、意欲的に取り組めるように指導していく。
- 学習に取り組む中で友達と積極的に関わり、自分や友達のよさに気づき、ともに高め合っていこうとする態度を育てていく。

《他教科での取組》

- 家庭科や学級活動を通して食育との関連を図る。

特別活動・総合的な学習の時間

- 学校保健委員会において「こころの健康」として「あいさつでひろげよう 笑顔の輪 みんな生き生き 芹南っ子」をテーマに学校全体で取り組み、主体的で活発なあいさつから、コミュニケーション能力の育成を図り、心の健康に関する意識を高める。
- 運動会では、体育科で培った資質能力をさらに発展させ、各学年の競技で成果を発揮できるよう指導する。
- 給食委員会による給食週間の取り組みにより、食育との連携を図る。
- たてわり活動での運動遊びを前年度に引き続き行い、異学年集団の中で活動する楽しさを味わう。

課外活動

- ・年間特設クラブ(ダンス・バスケ・サッカー)

令和元年度 芹が谷南小学校 体力向上1校1実践運動

《名 称》 ピョンピョン集会 (児童会活動を中心とした子ども主体の取組)

《ねらい》 子ども主体による体育・健康に関する活動を日常的に位置付けて取り組むことで、子どもが運動を日常生活の中に積極的に取り入れようとする態度を育成する。

《内 容》 後期に2回、朝自習の時間を使って「ピョンピョン集会」を行う。3分間で何回跳ぶことができたかを記録し、1回目の記録をもとに、2回目に向けて各学級で取り組む。目標の回数に向かってクラスで団結して取り組むことで、積極的に中休みや昼休みに外で練習するようになり、体力向上を図る。
また、教師も一緒に取り組むことで、子ども一人ひとりの新たな一面を知ることができるなど、児童理解に役立っている。

●指 標： ・体力テストの結果により振り返りをする。